

研究所日誌

2002年5月

- 05/07(火) 第29回事務局会議
05/08(水) 労協連・高齢協連・協同総研常勤者会議
05/09(木) 会計監査打ち合わせ
05/11(土) 全国縦断シンポ 相模原
05/11(土) クリーンエネルギー・フォーラム
05/12(日) 全国縦断シンポ 広島
05/12(日) 日本協同組合学会 春季大会
05/13(月) 第30回事務局会議
05/14(火) 九州・協同集会打ち合わせ、千葉大・延藤先生訪問
05/18(土) 協同総研第5回理事会
05/20(月) 市民会議幹事会、国会要請行動、5・20法制化市民集会
05/25(土) 千葉高齢協總會
05/26(日) 労協船橋總會
05/27(月) 第1回協同集会千葉実行委員会
05/28(火) 協同総研2001年度監査
05/31(金) NPO文化協同学習センター「地球市民講座」、YCP(法政大)

編集後記

おそらく私が生きているうちには2度と来ることはないであろうサッカーの世界カップが、この20日あまり日韓両国で開催されています。

思えば、94年のアメリカ大会以前には、日本代表チームがW杯の本大会に出場できるなど夢にも思わなかったし、「ドーハの悲劇」の4年後のフランス大会にしても、アジア第3代表でやっと出場したわけで、主催国枠で出場した今大会も、ヨーロッパやアフリカの強豪と互角に戦い、決勝トーナメントに進めるかどうかは、正直不安でした。だから、1次リーグを堂々突破しトーナメントに進んだことは、十分評価に値することだと思いますし、トーナメントの1回戦でトルコに負けたことも、次のドイツ大会に向けて楽しみが増えたと自分を納得させることができました。

が、ここへきての韓国チームのまさに神がかり的な躍進です。韓国が勝つことは無論嫌なことではありませんが、その活躍を見るにつけ、もう少し欲を張るべきだっただのではないかと落ち込んでいます。もっとも日本代表が勝っていれば、6月号が発行もできなかったかもしれませんが。

(菊地 謙)